（別添資料１）

事業所名　放課後等デイサービス　らいとはうす名取

支援プログラム

作成日　2025 年 2 月 1 日

法人（事業所）理念	放課後等デイサービスは，障害のある小学生から高校生の子どもたちが放課後に通所し，児童福祉法に基づき必要な療育・支援を行う福祉サービスです。 「らいとはうす名取」では，学校でも家庭でもない第三の居場所として，活動をしています。指導員は「子どもたちは成長する」という考えのもと，子どもたち（の力）を信じ認めながら一人ひとりに合わせた支援をしています。子どもたちは，周りに信じてもらえるという安心感の中で自分を表現し，自尊感情の再構築，自己肯定感を獲得し，自分の課題に向き合いながら成長していきます。やがて，自ら子どもらしい素直さと健全さを発揮していけるようになると考えています。また，自尊感情の再構築・獲得は，情緒の安定や自発（内発）性，社会性などの基礎づくりになると考えています。 指導員と一緒に楽しく遊ぶこと，運動することを活動の中心とし，楽しく過ごすことで，感覚統合，身体能力の向上を図ります。集団スポーツでは，自己肯定感や自己有用感を育て，また，指導員との信頼関係を基礎とした関わりは，将来自立した生活を営み，人のために役立つという本当の自己実現に向けて大切な経験になると考えています。		
支援方針	施設を利用する子どもたちの多くは，軽度の発達障害や知的障害があります。その為，活動の中でストレスを感じていると思われる行動や，気になる行動も多く見られます。私たちは，それらが障害の特性なのか二次的障害なのかを考え，障害には障害に合った対応を，また二次的障害であれば，軽減や改善ができないかと考えて支援します。具体的には，まず子どもに安心して自分を表現してよい場所であることを知ってもらうことです。次に指導員との関わりの中で個別の支援・療育を計画していきます。障害には，その子の状態を見て認めることから始めます。二次的障害には，その子が必要とすることに応えることで，その子の発達に寄り添います。愛着行動を存分に経験したり，認められ誉められたりする体験を通して自尊感情や自己肯定感が獲得できるように支援していきます。またこれらを基礎として，子どもたちは発達段階に沿って，相互の認め合いから自己有用感を獲得し，自己実現を達成していきます。		
営業時間	14 時　0 分から　17 時　30 分まで	送迎実施の有無	○あり　なし

個別支援計画項目		支　援　内　容
本人支援	日常生活・遊び （健康・生活・認知・行動） （社会性）	指導員との信頼関係を基礎とした自由遊びが支援の中心となります。特にストレスを抱えていたり，二次障害により問題行動を表出している子どもには，信頼関係を築きながら安心して自由に自分の気持ちを出したり，やりたいことができたりするような支援を行なっていきます。表出された気持ちや行動を，受け止め認めてもらうことで，気持ちの安定が図られると共に，自尊感情が育ち，生活の中の行動が優しくなり，社会性も自分から発揮できるように支援していきます。
	運動について （運動・感覚）	運動（サッカー）でも，指導員と楽しく安心して活動することが基本ですが，ルールを守って一緒に活動することも大切にします。またサッカーはボールを足で扱うので最初は誰でもうまくできず，周りを過度に意識することなく活動を始められます。運動をすることでストレスの発散はもとより，ボールをコントロールすることで体幹の安定や運動調整，感覚統合にもつながります。技術の習得は，指導員や周りの子どもたちから認められ自己肯定感の獲得につながります。更に試合などチームでの活動は，友だちから認められたり友だちを認めることで，社会性や自己有用感の獲得につながります。これらがスムーズに展開できるように支援していきます。
	コミュニケーション （言語・コミュニケーション・人間関係・社会性）	コミュニケーションも指導員との信頼関係が基本ですが，大切なことは，子どもが安心して自分を出せる場所と感じられることです。もう一つのコミュニケーションの基本は，子どもの言葉や行動に表れた気持ちや考えを受け止め応えることだと考えます。このことにより，より自分が認められているという自尊感情が育ち，自立に向けての自己肯定感や社会性などの獲得に繋がっていくと考えます。将来子どもたちが自発的（内発的）に社会性を発揮し自己実現できる支援ができると考えます。
	専門的支援 （理学療法士による）	専門的支援による療育は，「感覚」「姿勢」「協調運動」の3つに焦点を当てて考えています。子どもたちの発達に応じて段階的に身体認知を成熟させたうえで姿勢制御を安定化させ，最終的には滞りなく協調運動が遂行できるように，ボールタッチとラダートレーニングを通して運動機能の向上を目指しています。
	その他 （配慮事項など）	

家族支援	家族は子どもの人間性を育む大切な環境であると考えます。子どもにとって安心でき，のびのびと自分を出せる場所であり，成長のエネルギーをもらう場所であってほしいと思います。その為には，子どもをあるがままに受け止められるような家族であってほしいと思い，親の良さを認め，安心して子どもに向き合えるような支援をしていこうと考えています。	移行支援	私たちの施設は，小学校から高校卒業までの子どもが在籍する施設です。子どもたちは，ここで大切な経験をして社会に出ていきます。将来，社会で人と信頼関係を結び，人の為に役立つことを考えられる人に育つことを目指しています。それまでに自分に自信を持ち，社会に明るく元気に出て行けるように支援をし見守っていきます。
地域支援・地域連携	地域支援では，避難訓練（冬休みと春休み）の帰りのごみ拾いなどを通して交流があります。 地域連携では，利用者が他の施設を利用していることも多く，担当者会議や，モニタリングには積極的に参加しています。利用者の様子や各施設の役割などを共有するとともに，成長や今後の課題についても確認しています。	職員の質の向上	この会社の理念を理解し共有し実践するために，現在の発達や障害の様子を情報共有したり，前日の活動についての振り返りを日々行なっています。理学療法士，保育士・児童指導員の立場や各職員の目線を大切にして，意見を自由に出し合い，お互いの考えも認めて活動に活かしています。 外部の研修にも参加していきます。
主な行事等	保護者：前期面談/後期面談（約１時間） 利用者：避難訓練（洪水，火災，地震）　夏：かき氷まつり，お楽しみ会/冬：おやつパーティー，お楽しみ会		

（別添資料１）

事業所名　児童発達支援　らいとはうす名取

支援プログラム

作成日　2025 年 2 月 1 日

法人（事業所）理念	児童発達支援は，障害のある未就学児が通所し，児童福祉法に基づき必要な療育・支援を行う福祉サービスです。 「らいとはうす名取」では，ご家庭と連携を図りながら子どもたちが安心して過ごせる場として活動を行っています。指導員は「子どもたちは成長する」という考えのもと，子どもたち（の力）を信じ認めながら一人ひとりに合わせた療育を行っています。子どもたちは，周りに信じてもらえるという安心感の中で自分を表現し，自尊感情の構築，自己肯定感を獲得し，自分の課題に向き合いながら成長していきます。やがて，自ら子どもらしい素直さと健全さを発揮していけるようになると考えています。また，自尊感情の獲得は，情緒の安定や自発（内発）性，社会性などの基礎づくりになると考えています。 集団遊びを通し，感覚統合，コミュニケーション能力の向上を図ります。また，指導員との関わりの中で愛着形成や信頼関係の構築を図り，承認欲求を満たし自己肯定感を育てていくことで，将来自立した生活を営み，人のために役立つという本当の自己実現に向けて大切な経験になると考えています。				
支援方針	施設を利用する子どもたちの多くは，軽度の発達障害や知的障害があります。その為，施設での過ごしの中でストレスを感じていると思われる行動や，気になる行動も多く見られます。私たちは，それらが障害の特性なのか二次的障害なのかを考え，障害には障害に合った対応を，また二次的障害であれば，軽減や改善ができないかと考えて支援します。具体的には，まず子どもに安心して自分を表現してよい場所であることを知ってもらうことです。次に指導員との関わりの中で個別の支援・療育を計画していきます。障害には，その子の状態を見て認めることから始めます。二次的障害には，その子が必要とすることに応えることで，その子の発達に寄り添います。愛着行動を存分に経験したり，認められ誉められたりする体験を通して自尊感情や自己肯定感が獲得できるように支援していきます。またこれらを基礎として，子どもたちは発達段階に沿って，相互の認め合いから自己有用感を獲得し，自己実現を達成していきます。				
営業時間	9 時　0 分から　13 時　0 分まで		送迎実施の有無	○あり　　なし	
個別支援計画項目		支　援　内　容			
本人支援	日常生活・遊び （健康・生活・認知・行動） （社会性）	指導員との信頼関係を基盤に子どもが安心して過ごせる場所の提供を行っていきます。そのために指導員との関わりの中で食事や排泄，身支度などADLの自立を促していきます。 また，指導員との信頼関係を基礎とした遊びを通し，自主性と社会性の向上を図っていきます。			
	学習について （認知・感覚）	日々の活動の中で，物事の認知や感覚に触れていく機会を増やしていきます。 そのために，月に一回の制作活動でハサミ等の道具の使い方を知る機会を設けたり，子どもたちが指導員との関わりの中で，正しい物事の認知を覚えていけるよう繰り返し支援していきます。			
	コミュニケーション （言語・コミュニケーション・人間関係・社会性）	指導員や他児との関わりの中で，場面に応じた他者との正しい関わり方を教えていきます。 それを元にお買い物学習や外出プログラムで社会参加できる機会を増やし，一人ひとりの子どもの将来的な自立に向けての支援を行っていきます。			
	専門的支援 （理学療法士による）	専門的支援による療育は，「感覚」「姿勢」「協調運動」の3つに焦点を当てて考えています。 運動を通じて子どもの発達状況に応じた段階的な身体の使い方を教えていき，最終的に体力の向上と共にケガの抑制に繋がる動きを一人ひとりができるようになることを目指していきます。			
	その他 （配慮事項など）				
家族支援	家族は子どもの人間性を育む大切な環境であると考えます。子どもにとって安心でき，のびのびと自分を出せる場所であり，成長のエネルギーをもらう場所であってほしいと思います。その為には，子どもをあるがままに受け止められるような家族であってほしいと思い，親の良さを認め，安心して子どもに向き合えるような支援をしていこうと考えています。		移行支援	私たちの施設は，小学校へ就学までの子どもが在籍する施設です。子どもたちは，ここで大切な経験をして社会に出ていきます。将来，社会で人と信頼関係を結び，人の為に役立つことを考えられる人に育つことを目指しています。それまでに自分に自信を持ち，社会に明るく元気に出て行けるように支援をし見守っていきます。	
地域支援・地域連携	地域支援・地域連携としては，お買い物学習や外出プログラムにて，公共施設や近隣の商業施設を利用することで交流を図っています。また，利用者が他の施設を利用していることも多く，担当者会議やモニタリングには積極的に参加しています。利用者の様子や各施設の役割などを共有するとともに，成長や今後の課題についても確認しています。		職員の質の向上	この会社の理念を理解し共有し実践するために、毎朝前日の振り返り、情報共有や、現在の発達や障害の様子を話し合いを行なっています。理学療法士、保育士・児童指導員の立場や各職員の目線を大切にして、意見を自由に出し合い、お互いの考えも認めて活動に活かしています。 外部の研修にも参加していきます。	
主な行事等	保護者：前期面談/後期面(約１時間) 利用者：お買い物学習(月１回) 制作活動(年３回) 水遊び(7，８月) 季節の飾りつけ(七夕，Xmasなど)				